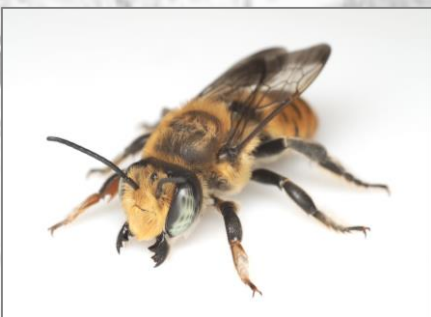


葉っぱで巣を作る可愛いハチ キバラハキリバチ



羽化したばかりのキバラハキリバチ *Megachile xanthothrix*
(左がオス、右がメスと思われる)

ハキリバチの仲間は葉を切り取って丸めた巣(育房)を作り、その中に卵を産む。1つの育房を作るのに何枚も葉を使う。



羽化したばかりのキバラハキリバチのオス
葉を切り取るために大アゴが発達し、ギザギザになっている。複眼も大きくてエメラルドグリーンの色合いが美しい。これは確かにかわいいぞ...! (ここだけ佐藤)



左の育房を見つけた地面の穴(左)と穴から見つかった爬虫類の卵の殻(右)
おそらく、ヘビやカメが産卵のために掘った穴をハキリバチが再利用したと考えられる。



育房の中の幼虫(矢印)
黄色いものは、母バチが花粉と蜜と唾液を混ぜて作った子供用の餌。



繭の中の大きな幼虫(矢印)
幼虫は大きくなると繭を作り蛹になる。繭はとても固くて頑丈なつくりをしていた。



カビに覆われた育房
カビのおかげかは分からないが、卵が入った葉がダンゴムシに食べられることはなかった。カビとハチは共生関係にあるのだろうか...

最近、ハチを可愛いと言ったら笑われてしまった。挙句の果てに、「ハチとか怖っ。それ可愛いとかいうお前もすげえ(笑)」とまで言われてしまった。あーあしょんぼり。

雑談はこの辺にして本題へ入ろう。このハチの分類は節足動物門昆虫綱ハチ目(膜翅目)ハキリバチ科に属する準絶滅危惧のハチである。特徴は腹部に生えている金色の毛と可愛い顔、そして、葉を切り取るための頑丈な顎だ(ちなみにこの金色の毛はオスのお腹側には生えていない。なぜなら、この毛はメスが幼虫の餌となる花粉をつけ、貯め、巣へと運ぶためにあるからだ)。このハチの幼虫を飼育してみたのだが、変わっていることが多くてびっくりした。

まず、**巣のある場所**だ。このハチは他の生き物が地中にあけた穴(既存坑)を利用して巣を作る(比較的開けた砂浜海岸や河川敷環境が利用される。したがって、海岸や川岸の埋め立てなどがこのハチの減少につながると考えられている)。良く利用されるのが、キンモウアナバチという他のハチの古巣なんだとか。また、ネズミの穴を利用することもあるようだ。私が見つけたハキリバチの巣の近くには、ハキリバチが利用することが知られているクロアナバチの古い巣があった。にもかかわらず、ハキリバチの巣穴からは、なんと爬虫類(ヘビかカメ)の卵の殻が見つかった!爬虫類が産卵のために使った穴をハチが再利用していたのだ。しかも、穴の中にあった爬虫類の卵の殻までハチがきれいに積み重ねていたのだ。このことから、ハキリバチは巣の中ではあまり視覚には頼っていないようだ。

次に**幼虫期間**だ。私が採ってきたのは、7月28日だが、その日に生んだと思われる卵が3日後には1令幼虫に、そしてその5日後には終齢幼虫になっていたのだ!なぜこんなに成長が早いのか?その理由は、「餌を早く食べて腐らないようにするため」、「無防備な幼虫期間を早く終わらせるため」などが考えられる。蛹こそ無防備ではないかと思う方もいるかもしれない。だがこのハチの蛹の繭?はとてつもなく硬い。なので幼虫の時よりずっと安心できるのだ(多分)。

そして(これでオシマイ)、**葉でできた巣(育房)もまた不思議なのだ**。1センチ位に切られたクズの葉を重ねて作られているのだが、小さい部屋が二つ重なっている。その近くにはダンゴムシがいたのだが、**なぜかこのダンゴムシ、育房に使っている葉を全く食べないのだ**。よく見ると、葉は枯れずに黒く変色している。家に持ち帰り、この幼虫が終齢幼虫になった頃にその疑問が少し解けた。その黒い葉はカビが生えていたのだ。あーやってしまったと思ったのだが、幼虫に影響はなさそうである。それどころか元気に蛹になろうとしていた。ダンゴムシが食べなかったのはこのカビのせいなのかもしれない。**ここでまた新しい疑問が出てきた**。本当にこのハチとこのカビが共生しているのか?ということだ。たしかに「ハキリアリ」という蟻(おおこれも「ハキリだ!」)の仲間のようによく共生している昆虫はある。このカビとハチの関係をもっと調べたら面白そうだ。

こんな話を友達にしたのだが(もちろん虫好き)、反応は「ふーん」だけだった。うーん、しょんぼり。これを読んでくれた方は、こんな可愛くて不思議なハチがいるのか、ということの片隅でもいいので覚えておいていただけるとありがたい。

(文・写真 下山田樹)